

1977

義太夫

義太夫協会々報
第11・12合併号

昭和52年2月12日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2
新橋演舞場別館TEL(541)5471

アメリカの大学生と邦楽

会長 吉川 英史

私は昨年の秋学期、アメリカのミシガン大学で日本音楽の講義を受持ちました。ミシガン大学は前大統領フオードさんの母校です。彼の大統領立候補演説の第一声は、この大学の室内競技場で数万人の聴衆を前に行われ、私もその現場に出かけましたが、場内に入らず、沢山のヤジ馬と共に、場外で立ち聞きしました。

私はミシガン大学の学部の音楽学の学生のために、日本音楽史を近世に重点を置いて講義したのですが、大学院の演習の方では、語り物音楽の研究を指導しました。講義は英語でやりましたが、演習は日本語でやることができました。演習に出る大学院生五人は、日

本に來たことのある学生たちで、みな日本語がうまかったからです。

この演習の主要研究題目は義太夫節の「忠臣蔵」と「寺子屋」になりました。日本で能楽を研究したところあるトム・ヘア君は、「七段目」の由良之助とお軽の対話を、英語の声色でやったのには感心しました。学生の発表はすべて英語なので、指導者としてそれを聞き取るのには多少神経が疲れました。私はその英語の発表に対して、日本語でこんな風に合の手をはさむわけです。

「お軽が二階から梯子で降りる時に、非常に恥しがり、嫌がっているのは、あなた方に理解できないかも知れないが、お軽はズ

ロースをはいないからです。日本の女がズロースをはくようになったのは、昭和初期一九三〇年代、白木屋デパートの火災で、ノーズロースの女が恥しがって、大勢死んでから以後のことです。」
青い目をキョトンとさせて、うなづいていました。ここまで説明しなくてもよかったのかも知れませんが……。こんな方面の話はこれ一回に止めました。

ミシガン大学では、「体はアメリカ人でも、心は江戸っ子だから」というマルム教授が、長唄の演奏を指導しておられるのですが、「四季の山姥」の特訓を見学して、敬服しました。前記トム君たちの唄に、「日本音楽集団」や国立劇場の歌舞伎に随伴したデビッド・ヒューズ君たちの三味線、彼の夫人の笛その他の囃子付きという本格演奏なのです。彼等は演奏家志望でなく、音楽学の学生ですが、アメリカでは、研究者も演奏を学ぶという風潮が強いようです。

私は、ウエスリアン大学で鳥居名美野さんの箏曲教室と高橋竜童さんの尺八教室、カリフォルニア大学の東儀季信さんの雅楽教室、ハワイ大学の邦楽教室を見学することができました。ミシガン大学の邦楽実習室を始め、これらの全部の教室が畳敷きであるのは、当然といえば当然ですが、日本の大学の邦楽教室が、ほとんど洋間で腰掛けであるのと対照的でした。アメリカの関係者は、邦楽は畳の上ですわって演奏するのが本式だと考えているのでしよう。このことは単に形の上の問題だけでななさそうに思っ、今も考えさせられています。アメリカの邦楽熱は次第に高まりつつあることを報告してこの文を終ります。

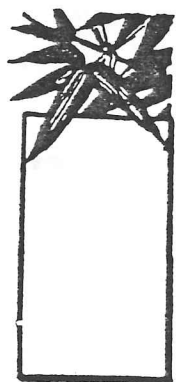
初春に想うこと

副会長 豊 沢 仙 広

明けまして五十二年は何となく明るい様でおめでとう御座居ます。東京の義太夫ブームになりましたのも義太夫協会会員の皆様の方ならぬ御後援の賜と有難く存じております。会長も無事にお帰りになり皆々大よろこび、半年間の不在中、役員一同一生懸命に協会の仕事に従事致しました故、きつとおほめのお言葉を頂けると存じます。信任厚い吉川先生を会長に戴いている義太夫協会は、あらゆる方面の方に認めて頂いておりますので、立派に義太夫節発展の成果を挙げることに信じております。後継者の手本になって頂くよう正会員の皆様、ますます芸術を磨いて下さいませ。賛助会員の皆様、御自分の師匠を大切に古典芸術として最高の義太夫を楽しんで下さいませ。

毎月二十日、二十一日の本牧亭公演、本年もよろしく御支援下さいまして、お出かけをお待ち申し上げます。昨年十二月の心身障害児の為の慈善公演は、二日間とも大入満員でNHKに多額の寄附をすることが出来

ました。御寄附頂きました皆々様に、協会としても厚く御礼申し上げます次第でございます。五十一年を無事に義太夫協会のお世話をさせて頂きました事、七十八歳になりました私は、過去をふり返って人生この上ないよろこびを感じているこの頃です。今日私に出来ない事は、三味線が思うように弾けない事だけです。勉強の仕直して毎日三味線に語りかけて楽しんでおります。昔返るよう、懸命に三味線の勉強を致します故、協会と共によろしく御引立て下さいませよう、伏してお頂い申し上げる次第で御座居ます。会員の皆様のお健康をお祈り申し上げて年頭の御挨拶と致します。



竹本小土佐師 (名誉会員)

明治・大正・昭和の三代を女義界の第一人者として活躍した小土佐師が亡くなられた。満百四歳と八ヶ月である。老衰のため床につかれていたが、大晦日忽然として起上り美佐尾さん・土佐照さんに向い「姉妹相扶助すべきこと」を述べられたる後合掌なし朗々と「南無妙法蓮華經」を誦し又床に臥し、明るく元旦未明眠るが如き大往生を遂げられたという。本名・本多つま、明治五年名古屋に生まれ、十二歳の時四代目土佐太夫門に入り小土佐となる。十五歳(明治十九年)土佐太夫一座と共に上京、上野池の端吹抜亭(今の本牧亭辺り)で真打として出演し、大好評で初代綾之助と人気を二分した。後年の呂昇は昔き頃小土佐一座の三枚目を語っていたし、初代朝重は姪である。その他現在活躍中の人を含め多数の後進を育てた。昭和三十年紫綬褒章・昭和四十年勲五等宝冠章を受く。何れも女義界初の授章叙勲である。昭和四十六年四月二十三日(誕生日)、満百歳祝賀義太夫会が本牧亭で行われ坂田文相他の祝辞を受ける。師の約一世紀にわたる業績は内野三恵氏の労作「竹本小土佐の芸術と人」(新泉社)に詳しい。終焉の地大宮市では名誉市民ともいふべき師の追悼女流義太夫会を企画され、四月二十二日大宮市民会館にて土佐広・仙広他協会女流総出演(車人形参加)で催される。

『近松の人々』から

内 野 三 恵

『近松の人々』は高須梅溪大正三年の著である。梅溪は雅号で本名を芳次郎（明治一三一昭和二三）、大阪船場の生れである。早大英文科出身で文芸史、評論、思想史論等多彩な著述がある。文学的に早熟で十八歳から同人雑誌を起し、多くの雑誌新聞の編集に当たった。近松の研究は、青年初期に交友とともになされたが、中絶しこの書は三十歳以後、鑑賞、評論の立場で書かれ個性的浪漫的作品である。

目次をみると、総論を夢の詩国とし、この由来が近松芸術を読んでゆくと、夢の天国に遊ぶ心地といった意味であるらしい。次で各論十講、論と言うも近松原作への共感の陳述となる分が多い。その一、蜷川の悲（小春治兵衛）で、すぐと紙治・河庄・炬燵などの外題略称がうかぶようになっていく。

著者は年少通学路が曾根崎であったので、お初天神・雀鉢・河庄・蜷川に氣のつく歳でなかったのを嘆き、且それらは其の頃歴として知られており、それが大正初期凡て形跡もないと書く。

炬燵の二女性、おさん小春を単的に、即ちおさんを良人思いの優しい旧式な町家の女房、

小春を張りも意気も情味もある濃情の女と観察する。この二女性と治兵衛との收拾し難い三角関係が悲劇の骨子である。芝居をみても義太夫を聴いても、上手に演られると余計腹の立つくうたら治兵衛に梅溪は「治兵衛よ、御身は元祿のドンファンたるべく余りにも弱く余りにも小心でなかったか」と同情する。ロマンチックの青年梅溪には、この遊好きで小心で意気地無で腹立深い、二人の子の親である蕩尼であってこそ、此の悲劇を生んだと書きたくないのだ。

近松好みの、即ち一は町家の女房、一は遊女の取合せが自然発生したのであるから元祿の作家は筆冥利に尽きたわけだ。私は前に高山樗牛の「近松果林子」を引いて、近松の恋の掛引、平に言えば恋愛戦における勝負の心理を、梅溪樗牛の解説を心の底にふまえて、私の所感を述べたいと思う。

おさんと小春の恋の葛藤は、治兵衛A、おさんB、小春Cの正三角である。炬燵は、足かけ三年おさんBが格気一つせず治兵衛を通して貰った小春Cが、太兵衛なるいやな客に身請されると治兵衛Aにいやがらせを言った。腹立深い治兵衛は、小春に愛想つかし、て家に帰って炬燵で寝ていた。おさんが炬燵蒲団を剥ぐると、治兵衛が泣面をしてる。三年間腹を立てず我慢したおさんが、故で初めて恨言の限を尽す、「その涙が蜷川へ流れたら小春が汲んで呑みやらうぞ……」の好場面が冒頭にくる。Bの恋の掛引は、こゝから附帯事項はやゝ複雑だが、掛引そのものは鮮明に展開する。

小春の嫌がらせは、実は治兵衛の遊蕩阻止に策尽きて、治兵衛のため家のため、治兵衛

を諦めて欲しいと小春に訴えた文に、小春が受諾した結果の行爲だった。この時点でBはCに恩を被る形となり、恋の掛引からBは負である。Cは優位である。且つおさんBは敏感に小春が身請の前に目害するのを感じ取った。小春の自決は死を以て恋の勝利を勝ち取る。この負目はおさんには堪え得ぬ。そこで何としても小春を死なせてはならぬ、助けたいで百五十両の身請代が問題となった。ストリーでは複雑なフィクションがあつて金にはできる。そこへ死の決意で最期に一目と逢いに来て、その金で太兵衛に一泡吹かし男の意地を立て、夫婦まめに暮してくれと言う。

そこに小春の思はぬ衝突が起った。おさんと娘四歳なるお末が尼になつたと、おさんや舅の筆跡でお末の衣装にべたと書いた文章を読まれたのであつた。小春の愁嘆となる。「これまで格気妬も無う、美しくう逢はして玉はる御恩を思ふてお頼みを聞入れたのが枷に成り……」とある。此のおさんBと舅の取った逆襲は、小春Cが甘んじて受入れ難い。恋仇を尼にして、小春治兵衛がぬくぬくと暮せるわけがない。小春はおさんの行動に感動はしたが、恋の勝利者の座を譲りたくなかった。そこへ尼姿のおさんは来なかつた。小春はおさんの娘末の墨染を見せられたとけで、充分に死を決心したに違いない。

戯曲では、この騒ぎの場へ、いやな奴太兵衛が小春を掠りに来て、治兵衛がどたばたの最中太兵衛を傷け、大声をあげられるので遂に殺す。これが、網島太長寺の心中の直因のやうに読まれ易い設定である。

私はこの設定を好まない。これでは、小春の心意気を台無しにして終うと思う。

蛇の目傘

竹本喜久太夫

話は一寸古いが終戦間をしの廿一年私は陳開先の半原から松太郎師の許へお稽古に行くべく小田急へ乗りました。車内は満員に近い状態なので戸口の角にやっと手に入れた蛇の目傘を立掛けほっと一息ついた時、座席に四十半ば位の小肥りの紳士が両脇に座って居る若い男性二人と何やら話して余念のない様子。話の内容は騒音の為定かには聞きとれぬが、音楽関係の人らしく其のような話が時々もれ聞こえて来る。話が一句切りついたらしく初老の紳士は煙草を取出して吸い始めた、私もつられて煙草をつけ乍ら窓外を眺めると大分新宿に近くなって居た。吸い終った其の人は又二人を相手に話し出した。「君達もこれから作曲をするようになるだろうが気をつけなければならぬ物の一つにナマリないようにする事が必要だ」私はギクリとして直に煙草をもみ消し、何気ない風を装い乍ら紳士の前の吊皮にぶら下った。私が今稽古して居る一段と苦勞をして居る次第。若者が「ナマリとは何ですか」と聞き返した。「ナマリとはネ、例えば物を食べる箸と川にかゝっている橋と、おできからでる化膿と舟が浮んでる海

と各々アクセントが違うだろ、それを考えずに作曲すると聞く人は意味がわからなくなってしまう」それから紳士は幾つかの例をあげて説明した。此の人は一体誰だろう。たとえ道は違っても此の先生の話の聞きかたも聞かぬならば私にとっても大きなプラスになるのではなかるるか、そう思った時電車は新宿駅に着いた。若者二人を連れ紳士はサッとホームへ下りて階段を上って行った。私もあわて、後を追ったが然し人混みが烈しく直に雑踏の中で見失った。追う事を諦めた私はア、失敗た、蛇の目傘を車内に置いて来てしまった。あわて、階段を駆け下り今降りた電車へ乗って見たが既に影も形もない、やっと手に入れた蛇の目傘は上の方に白エナメルで喜久太夫と書いてもらってある。持っていた人は何と解釈したろうか。何と呼んだであろうか。ちなみに其の頃清元にも常磐津にも同じ字の喜久太夫さんが居た。私は失った傘より紳士を見失った方が痛かった。其れから三十年、アノ先生は果して誰だるうか、ヒョッとしたら一昨年喜の寿を迎えた古賀政男さんかも……………。

「米沢公演のかへり」

ね息立つ、夜汽車に

ひとり故里を、

想ふか素八師

桃かじり居る

松江

☆お見舞い☆

昨年十一月二十一日、本牧亭公演にて「日高川」出演中倒れた常務理事野沢吉平さんは、その後経過良好で、この二月五日退院された。病院では「中途で倒れ多勢のお客様に迷惑をかけたので誠に悔しい。一日も早く直って演りなおしたい。」と涙乍らに言われたが、その気力で再起し、演奏と後進の育成に当たっていたと聞きたいと思う。

吉平さんと永年のコンビである竹本喜久太夫さんは近年胃潰瘍に苦しんでいたが、以心伝心、コンビ倒るの報に一層悪化、十一月末手術を受けた。暮に退院し今は徐々に体力を養いつつあるところだが、やはり一日も早く恢復され再生コンビの舞台を聴きたいものである。

☆お知らせ☆

■芸団協助成新人奨励賞 51年度は、竹本素丸・野沢松江が受賞。3月21日(月)本牧亭の協会公演会席上で表彰式を行います。

尚、20日(日)は、竹本朝輝の初お目見得、語りものは「鳴門」 入場料一、〇〇〇円

■名韻会「学生邦楽大会」竹本弥乃太夫師指導・補導出演の下に教室出身の学生が多数出演。尚、平塚市高浜高校の乙女文楽(桐竹智恵子師指導)の演奏も行われる。3月29日(火)午後 東横ホール 入場無料

■故竹本小土佐を偲ぶ会(大宮市主催) 義太夫協会共賛) 4月22日(金) 2時開演

女流総出演、八王子車人形も参加。於大宮市民会館小ホール 有料

協会の動き

昭和51年7月より
昭和52年2月まで

(昭和五十一年)

7月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭
7月25日 吉川会長 ミシガン大学客員教授
として渡米

8月7日 野沢吉平・竹本綾太夫両理事、ア
メリカ建国二百年記念芸能祭に参
加の為、八王子車入形と共に出発。
8月16日 TBSラジオ「おはよう利根川裕
です」にて、義太夫教室風景が、
レポートされた。

8月20・21日 若手盛夏勉強会 於本牧亭
8月27日 竹本試験会。於国立劇場稽古場。
9月18日 学校巡演 於城西高等学校

9月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭
10月12日 常務理事会 於事務局。
10月16日 教師のための講習会(中野区)
10月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

10月27日 定例理事会 慈善公演 邦楽演奏
会、祖先祭、五十二年度上半期の
事業について他 於新小松
10月31日 学校巡演 於高浜高校

11月12日 東京都助成邦楽演奏会打合せ、於
邦楽連合会事務所

11月16日 学校巡演 於東京女子学園(二・三年)
11月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

11月27日 東京都無形文化財の八王子車
入形(西川古柳一座)が初出
演し「日高川」を上演した。
11月27日 研究室 若手による大序稽古開始、
講師・猿三郎師 於新小松
12月9日 女義の会 92歳の小住師始め団司
・土佐広・仙広・染登・寛八の皆
さんが出演し盛況であった 於三
越劇場

12月20日 第六回心身障害児の為の慈善公演。
義太夫協会師走合同公演を兼ね、
吉例「仮名手本忠臣蔵」を演奏。
八王子車入形・西川古柳一座の特
別出演(三番叟)を得て、大盛況。

12月21日 当日の収益をNHK厚生文化事業
団に托す(6頁参照) 於本牧亭
義太夫協会師走合同公演、五十一
年お名残り公演として、前日に続
いて忠臣蔵を総掛合にておくる。

於本牧亭

12月27日 昭和五十一年度「祖先祭」11時半
本堂にて続経後、懇親会。会長渡
米中のため、仙広副会長より、芸
をもっていることの強み、舞台上に
立つことの大切さを強調する挨拶
があった。土佐広師の音頭で乾杯。
他に新入正会員(竹本朝雄)の披
露を行う。 於回向院
12月27日 仕事をささめ

(昭和五十二年)

1月6日 仕事始め
1月13日 吉川会長 帰国。
1月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭
2月9日 学校巡演 於明星学園(中・高)
2月12日 会報第十一・十二合併号発行

寄贈

豊沢 猿幸様 五行本他 四十五冊
豊沢 瑩緑様 柳行李 一ケ
豊沢 猿三郎様 稽古用見台 二台
佐藤 左玉様 文楽等研究書 十一冊
五行本他 二十二冊
渡辺 隅近様 活字床本 三冊
五行本他 十二冊
ハカマ 三枚
肩衣 二枚
根尾 三ケ

第六回心身障害児の為の
慈善公演

— 決算報告 —

(昭和五十一年十二月二〇日)

昨年暮の慈善公演は、東京都無形文化財、八王子車人形 四代目西川古柳一座の協力もあって、本牧亭の足札も足りなくなるほどの盛況となりました。

多額の御寄附を下さった皆様のお気持ちに感謝いたしております。また、直接募金箱にお入れ下さった多数の方々および、プログラムの印刷一切をおひきうけ下さった高野俊雄様に、厚く御礼申し上げます。

収入の部

会場募金箱	五五、四二九円
当日入場料	四九、〇〇〇円
出演者抜切符代	六七、四〇〇円
協会抜御寄附	二六五、二〇〇円
〔内訳〕	
土佐会様	五〇、〇〇〇円
新小松様	五〇、〇〇〇円
内野三恵御夫妻様	二〇、〇〇〇円
新小松従業員御一同様	一四、〇〇〇円
入船堂(都築八郎)様	一〇、〇〇〇円
小田切一鳳様	一〇、〇〇〇円
菊地秋月様	一〇、〇〇〇円
鈴木一光様	一〇、〇〇〇円
中村初波奈様	一〇、〇〇〇円

支出の部

交通・車代	五一、三八〇円
通信費	三四、七三〇円
本牧亭席料	三八、〇〇〇円
床世話・荷上げ料	二〇、〇〇〇円
謝礼・祝儀その他	六二、〇〇〇円
心身障害児の為の寄附金	二〇〇、〇〇〇円
諸雑費	三〇、九一九円
合計	四三七、〇二九円
差引残	〇円

妣田 圭子様	一〇、〇〇〇円
増田いね子様	一〇、〇〇〇円
松尾 武市様	一〇、〇〇〇円
松岡 語松様	一〇、〇〇〇円
渡辺 兼佐様	一〇、〇〇〇円
石塚 晃玉様	五、〇〇〇円
宮脇雪むら様	五、〇〇〇円
佐々木明郎様	三、〇〇〇円
竹本扇太夫様	三、〇〇〇円
竹本弥乃太夫様	三、〇〇〇円
和田 博様	三、〇〇〇円
島 春栄様	二、〇〇〇円
菅 邦夫様	二、〇〇〇円
瀬戸富美子様	二、〇〇〇円
平井おひろ様	二、〇〇〇円
鶴沢駒登久様	一、二〇〇円
合計	四三七、〇二九円

(投稿)

「近松の遺書」をめぐって

桑原須賀夫

代々甲冑の家に生れながら武林を離れ、三槐九卿に仕へ咫尺し奉りて寸時なく、市井に漂ひて商売知らず、物知り似て何も知らず隠に似て隠にあらざ、賢に似て賢ならず、世のまがひ者、唐の和の数ある道々、妓能・雑芸・滑稽の類まで知らぬことなげに口にかせ筆に走らせ、一生を囁り散らし、今の際に言ふべく思ふべき真の一大事は一字半言もなき倒惑、心に心の恥をおほひて七十余りの光陰思へばおほつかなく我が世経畢んぬ。

近松門左衛門が死の十数日前に自画像に讀として記した文章であります。一読して明かなように、齢古稀に至り余命幾許もないことを知った老芸術家の偽らざる感懐が、自嘲と韜晦に満ちた口吻で述べられており、感動を覚えさせられます。「今はの際に言ふべく思ふべき真の一大事は一字半言も」ないと切り近松の心の空洞を冷たい風が過ぎていくかのようです。その空虚を充すべき何物もないと知った時、近松ならずとも「倒惑」を感じずにはいられますまい。

近松は自己を「世のまがひ者」と規定しております。近松は本音を吐いているのであります。文体の自嘲や韜晦は一種のテレ隠しかも知れませんが、近松も今日でこそ

「劇詩人」としてシェイクスピアに比せられその文学的価値は一般の認めるところであり作品の一部は国語教科書に採られております。(もっとも、それを教師が授業時間内に扱うべくカリキュラムが組まれているか否かは別問題であります)が、それは文学や芸術の概念が確立され日の目を見るようになった近代以降のことであり、近松当時に於ては、たとえ大近松と言えども、所詮、「世のまがひ者」に過ぎなかつたからであります。このことは、鷗外の『濛江抽斎』に、抽斎がお目見えの役に戻つた折、上役から日頃の芝居小屋への出入りを戒められる件があり、容易に類推出来ましよう。ただ、近松自身、誰よりもそうした自己の立場をよく承知していたことは、「遺書」に見る通りであります。

武家に生れながら家を捨て、貴頭に仕えたものの爵位もなく、市井にあつて商売の道を知らず、物知り顔にあれこれ書き散らすが本当のところは何一つ解らない……:「世のまがひ者」。こうした自己認識は、しかしながら、近松が七十余に至つてはじめて得たものでしょうか。私にはそうは思えません。おそらく、彼の生涯を通じて常に心を領していた問題であつたに違いない。近松はそうしたアイデンティティの不安に耐えながら秀れた浄瑠璃、歌舞伎を書き続けたものではありますまいか。世の中を薔薇と言ひ、虚妄というも視点の違いに過ぎない、とは三島由紀夫氏の言葉であります。近松の世界は我々の目に薔薇の大輪を夢見させ、と同時にまた、暗い「生」の深淵をも覗かせずにはおかないのであります。近松が真の芸術家であつた所以であります。

77 郡民芸術フェスティバル

第七回 邦楽演奏会

昭和五十二年二月十三日(日)

於 第一生命ホール

東京都助成による特別料金

九〇〇円

主催 邦楽連合会 (義太夫協会・清元協会・古曲会)
後援 東京都 常磐津協会・長唄協会・日本三曲協会

第一部 (十二時半) 開演

一、三曲 明治松竹梅

二、茨江 八島

三、義太夫 菅原伝授手習鑑

寺子屋の段

松王丸 竹本 重之助

千代 竹本 越道

戸浪 竹本 駒竜

源藏 竹本 素八

三味線 鶴沢 三生

四、清元 梅柳中宵月 (十六夜)

五、常磐津 恩愛贖関守 (宗清)

六、長唄 八重葎賤機帯 (賤機帯)

七、三曲 都の春 (終演予定 四時)

お問合せ、お申込みは事務局まで。

第二部 (四時半開演)

一、三曲 三谷菅垣

二、義太夫 近頃河原の遠引

堀川猿廻しの段

与次郎 竹本 土佐広

お俊 竹本 綾之助

伝兵衛 竹本 朝重

母 竹本 光末

三味線 豊沢 仙広

ツレ弾 鶴沢 津賀昇

三、一中節 熊野

四、清元 六歌仙容彩 (喜撰)

五、三曲 根岸の四季

六、常磐津 辰橋

七、長唄 綱館 (終演予定 八時)

学校巡演レポート〔3〕

東京女子学園 二年生（二六九名）三年生（二五九名）のアンケート結果を報告いたします。
講演「邦楽の歴史・三味線の話」
実演「冥途の飛脚 新口村の段」
「卅三間堂様由来 木遣音頭の段」綾之助・駒登久・綾一

大変関心がある	2年	4%	3年	3%
少し関心がある	45%	49%		
余り関心がない	41%	39%		
全然関心がない	10%	9%		

一、邦楽に関心がありますか。

一、関心のない原因は何だと思えますか。

〔二年〕

- 聞きなれないためか、難しいの一言です。
- 生れてから古典音楽など聞かないし、機会もありません。機会が多ければ興味をもち始めるかもしれません。
- ギターやエレキなどは身近にあるから。
- 最近の若い人で古典音楽など好きな人はほとんどいないと思う。もしいたら、ちよっとおかしんじゃないかな。
- 古典音楽は言葉なんか理解しかねる。
- 一本調子で変化がなくてあきる。
- もう少し年をとったら関心もてるようになるのではないのでしょうか。まだ苦すぎる。
- 日常生活に関係がないから。
- スローテンポがきらいだから。

〔三年〕

- 日本の文化を残しても人間にとって少しの益にもならないから。
- 劇のように動きがないため。
- 暗っぽい感じがするので……。
- 若い人は嫌い、関心がないと決めつけていると思います。ですから色んな方面の曲をもっと知る必要があると思います。
- かたくなるしと思う。
- 静かにして何かを聞いたりするのが、性格的に合わない。
- 突然聞いても意味などがわからないから
- 今はまだ良さがわかる年令ではないと思えます。若さにはロックなど、老年には渋味のあるものがふさわしいと思います。

一、文楽を見たことがありますか。

ナマで	TVで	ない	不明
3年 3%	62%	34%	1%
2年 6%	53%	39%	2%
3年 3%	62%	34%	1%

一、歌舞伎を見たことがありますか。

ナマで	TVで	ない	不明
3年 23%	54%	22%	1%
2年 26%	49%	24%	1%
3年 23%	54%	22%	1%

一、次のものを聞いた(テレビで見た)ことがありますか。

雅楽	2年	39%	3年	47%	謡曲	2年	68%	3年	74%
常磐津	11%	11%	清元	19%	20%				
新内	4%	2%	長唄	73%	82%				
地唄	9%	10%	箏曲	67%	71%				
義太夫(以前に聞いた)	26%	31%	義太夫(初めて)	67%	64%				

一、教科書で読んだ時と、ナマで聞いた時と何かちがいがありましたか。

〔二年〕

- 教科書では意味をとりながらやったので場面が浮んだが、ナマでは聞きとるのに一生懸命で情景を想い浮かべるどころでない。
- 教科書からではナマの感じはわからないから、一度は聞いてみるのもいいと思った。
- フシがついて三味線が入っているから、やっぱり違うでしょ。
- ナマだと迫力はあるけど、私には難しい。

〔三年〕

- 一節を早くいうかと思えば、とても長くするとところもありさまで面白いと思った。
- やはりナマで聞いた方がいいです。でも、本を見ながらでないと聞きとれません。
- ナマだとくり返せないので理解できない。
- 教科書は平面的、ナマは立体的な感じ。
- 内容がまるっきり違う感じがした。
- ナマの方が雰囲気があって味がある。
- あるノびっこりした!!
- あまり変らないみたい。

一、語りについて

〔二年〕

○本当に人間が三人いるみたいで聞こえるのは素晴らしいと思つた。

○はじめ、余りに予想外だったので笑つてしまった。

○必死になつて聞いたらやつと何となく、言つていることがわかつてきた。

○大変エネルギーで素晴しかった。

○最初の方は面白くなかつたが、孫右衛門と梅川の話のところがとても良かった。

〔三年〕

○歌舞伎の言いまわしに似ているような気がしました。

○女性でもこれだけ刀強いのかと驚異だつた。

○これが昔の言語か、同じ日本語でもこうも違うものかと思ひました。

○一本調子に思えた。

○感情の波がはつきり表現されていたと思う。

○のどが痛くならないかなー

○何か心にびびくものがありました。

〔二年〕

○マイクも使わずに講堂の隅々にまで聞こえるなんてスバラシイ。

○すごく良かった。特に二人で演奏した方はステキでした。

○時々まちがったのか、ヘンな音に聞こえた。

○とぎれとぎれに鳴らすので、津軽三味線のよりに迫刀がない。

○どうしたらあのような心と体と三味線が一体になつた音色をつくれるのですか？

〔三年〕

○民謡とちがつて、低く陰を感じがして、すごく気に入つた。

○時々ま気合いが入るのに驚いた。

○ひけない私にとってはただ感心するばかり。

○間に入れるかけ声(?)が一寸おかしかった。

○日本人の心を知つたような気がします。

一、全般的な印象

〔二年〕

○この次には人形も一緒に見たいと思ひます。

○はつきり言つて今回の公演をまじめに聞いて感激した人はいないと思う。一生懸命にやっている人には悪いけど何度聞いても同じことだ。

○良さを見つけてやろうノという気で見始めたが、関心をもつほどには至らなかつた。

○服装の記色がよく、こつていたようだ。

○これまでテレビでやっていたまわしてしまつたが、今度やっていたら少しでも見るようにしたい。

○それほど心に残りませんが、どのようなのかを知つたことが勉強になりました。

○私たちより年輩の人、例えば両親などに聞かせたかつた。

○全て興味がありませんので印象に残っていません。でもわざわざ来て下さつて有がとうございました。

〔三年〕

○日本人としてこのような古典音楽に接することは大切だと思います。大変よかつた。

○古いものもわりと良かった。

○卅三間堂は中学の時聞いていたので、なつかしく思ひました。

○個人では義太夫をきく機会がありませんので、聞かせて頂いてとてもうれしく思つて

います。年寄りの音楽と思われやすいですが決してそんなことはないと思ひます。

○もっと身近に(TV等)楽しめたらと思ひます。

○義太夫を見て、芸術や歴史をふくめた古典の世界へのあこがれ、興味が一段と増した。

○日本の伝統を受けつぐ人がいなくなるのは残念ですね。でも、自分でやってみようという気持はあります。

○衣装をもっと明るくしてほしい。私たち若い者はあきやすいからハデにして見る楽しみも欲しいと思つた。

○日本人に生れてよかつたと思ひます。

テレビ・ラジオ御案内

◎NHK教育テレビ(3チャンネル)

二月十六日(水)八時十五分 邦楽廻り舞台

伊賀越道中双六

沼津の段

久作 豊沢 仙広

お光 竹本 越道

お染 竹本 朝重

久松 竹本 朝重

三味 鶴沢 三生

ツレ 鶴沢 津賀昇

豊沢 公治

◎NHK第一放送 二月十四日(月)八時五分

昨年暮の女義の会(三越劇場)で収録

したもの、小住師はこれが最後の舞台となりました。

天網島時雨炬燵

紙治内の段

豊竹 団司

豊沢 小住

◎NHK-FM 三月二日(水)五時

同じく女義の会より

天網島時雨炬燵

茶屋場の段(河庄)

竹本土佐広 豊沢 仙広

新入会員御紹介

(五十二年二月十二日現在)

正会員

特別会員

賛助会員

準賛助会員

会員便り

《おめてた》

計報

横井 素秋氏 (賛助会員)	50年4月14日 歿
斉藤 正鳳氏 (特別会員)	51年5月23日 歿
湯川 勤三氏 (準賛助会員)	51年6月29日 歿
大森 清楽氏 (特別会員)	51年7月 歿
村田 梅枝氏 (賛助会員)	51年10月 歿
竹本喜美太夫師 (正会員)	51年10月7日 歿
竹沢 弥七師 (文楽)	51年10月24日 歿
豊竹岡太夫師 (竹本)	51年12月23日 歿
竹本小土佐師 (名誉会員)	52年1月1日 歿
豊沢 小住師 (正会員)	52年1月17日 歿

《住所変更》

編集後記

会長の帰国で、まづは一安心
 というところ、また新たな気
 持で新しい年をおくりたいと思います。
 協会は列年、暮から二月―三月と、何かと
 行事や雑務に追われる時期に入りますので、
 今回は、11・12号合併号としてお送りさせて
 頂きます。どうか悪しからず御了承下さい。
 今回の編集に当って愕然としたことは、昨
 年春より野沢喜左衛門・竹本相生翁・竹沢弥
 七・豊竹岡太夫・竹本小土佐・豊沢小住とい
 う文楽・竹本・女義の第一人者名人級の方々
 が物故されていることです。正に義太夫界の
 厄年(度)というのが実感です。！合掌！